

やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

平成28年4月8日
第2号(春季)

新入生の皆さまへ

新入生の皆様。大学・高専への入学、おめでとうございます。これからの皆様の学びは、これまでとは全く異なったものです。いろいろ不安もあることでしょう。わからないことがあれば、ぜひ、所属する大学・高専の教職員・先輩に声をかけ、相談してください。

すでにご存知かもしれませんが、いま我が国は深刻な人口減少社会に突入しております。その背景として、若年者の地方から東京圏への過剰な人口流出があります。出生率が極端に低い東京圏は、若年者を吸収し、子育てを困難にする場所と化しています。

人材育成によって、地方創生を成し遂げる必要があります。協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業への皆様のご支援、よろしくお願いたします。

山形大学副学長
大場好弘

学生の考える地方創生

協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業は、県内大学・高専学生の皆さんが、地域と積極的に

関わることを推進しています。いま、それぞれのやりかたで地域と関わっている学生がどのように地

方創生を考えているのか、今回は山形大学人文学部の学生のみ皆さんの意見を紹介します。

山形大学の可能性

山形大学人文学部2年 阿部史佳

自分の勉強したい事がこの大学でできるということで、高校の時から山形大学を目指していました。一年勉強してみて、山形市は決して広い町とは言えませんが、だからこそコンパクトで住みやすい町なのではないかと感じています。

自転車で行ける範囲にだいたいのお店が揃っており、生活するのにあまり不便だとは感じません。

山形の魅力の一つとしては、子育て支援に力が入っているところではないかと思えます。先日病院に行ったとき、山形市で中学3年までの子供の医療費が無料という

ポスターを目にしました。これから家族を持つ若者にとって、こうした取り組みはとてもありがたいと考えます。地方創生を考えたとき、若者の県外流出を防ぐには、山形独自の取り組みを増やし、紹介していくことが大切なのではないかと感じています。

地域と連携した教育の効果

山形大学人文学部2年 小野寺麻美

山形大学はキャンパスを複数持っています。キャンパス同士が深くつながることで、よりよい大学になると思います。また、キャンパス同士だけでなく、地域とも密接な関係を気付いていくことが大事と思いました。

山形大学では既に「エリアキャンパス最上」という活動が行われています。これは、大学キャンパスがない最上地方全体をキャンパスと見立てて、学生が学習目的で最上地方を訪れるものです。このような活動を、キャンパスがある地域でも行うことで、より地域と密接になり、その地域のイベント

に学生が参加することにもつながるのではないのでしょうか。地域活性化にもつながり、講義として取り上げられることもできるかもしれません。地域と一体となった活動を行うことで、山形に残って働きたいというような学生も増えてくる可能性が考えられます。

山形の魅力発信に必要なこと

山形大学人文学部2年 高橋ののか

実は受験直前まで自分の進路について、かなり悩んでいました。最終的に行政に携わる仕事、つまり公務員になりたいと思い、山形大学の法経政策学科、中でも公共政策コースに魅力を感じました。

私の出身の宮城県だと、国公立大学＝住宅街から少し離れた自然溢れる場所にある！というイメージだったので、住宅街の真ん中に

溶け込んでいる小白川キャンパスは、初めて見た時とても驚きました。山形の各地にも他のキャンパスがあります。県外から進学してきた学生へ、山形県全体の魅力が伝わりやすくなっているのではないのでしょうか。また、私はバイト先が七日町商店街にあるのですが、花笠まつりやさくらんぼ祭りなどの様々なイベントが頻繁に行われて賑わっています。

ただ、宮城県から通っている友達には、「大学とバス停の間の道しか歩かないから、山形県の事は分からない！」という子が多くいます。せっかく山形大学に通っているのに、山形の魅力が伝わっていないのはもったいないと思います。私たち学生広報部が、学生目線で山形の魅力を学生に発信していくことがやはり大切なのではないかと思えます。

やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

教育科目の展開

協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業では、地域に密着して展開する様々な教育科目を、参

加大学間の連携を深めながら実施していきます。この項では、各大学で進められている先進的な教育

科目を取り上げ、皆様の参加を求めています。

実践プログラム演習 担当教員：山形大学・栗野武文



今回紹介する企業活動スタディーズ(定員 15名)は、企業マネジメント・組織マネジメントの基本的知識と運用力を備え、企業活動の諸領域においてイノベーションを生み出し、地域経済の活性化に貢献する意欲ある人材の育成を目的としています。必要な基礎的学力と、企業活動の現場での長期インターンシップおよび課題論文作成により実践的な課題発見・課題解決能力を身につけることが、コースの学習目標です。

受講した学生の声「インターンを行った 20 日間はとても充実して、あっという間に時間が経過しました。実際に現場に出て会社の方と一緒に働く、同じ時間を共有する、ということでその企業の様々な側面を見ることが出来ます。普段は知ることが出来ない業界の実情や裏側を知る貴重な体験になりました。『就職』という、今まで遠い世界のこのように感じていたものと向き合える機会であり、この経験は必ず将来の糧になると思います。」

実践教育プログラムとは、グローバル化に対応できる人材や、東北地方の地域再生を担うリーダーを育成するために、人文学部・地域教育文化学部・理学部それぞれの専門教育とは別に、3学部共通の特別教育コースとして実施するものです。大学卒業後、外国語コミュニケーション能力を活かして社会の様々な領域で活躍したい人、自治体等の公務員・職員を志望する人、民間企業等において活躍したい人のために設けられたプログラムです。

取材・執筆
山形大学人文学部 4年 米山夏美

学生の活動

大学に入ると、勉強以外にも、アルバイト・サークルなど、さまざまな形で地域とのつながりができていきます。ぜひ、自主的な活動で、みなさんに地域とのつながりを持って行ってもらいたいと思っています。今回の季報の執筆に全面的に協力していただいた、山形大学の学生広報部である YUM! を紹介します。

////////////////////

山形大学マガジン YUM! (ヤム) は大学広報部 AA として、山形大学を山大生自身、地域、そして全国へ伝える活動を行っています。主な活動内容はホームページでの記事の執筆です。



大学の公式ホームページではありますが、山形大を目指す高校生の方や、ほかの学部のことを知りたい山大生の方にも読んでもらいやすいよう、「私たちの言葉で」大学生活を紹介しています。

他にも昨年からは大学広報誌「みどり樹」でも講義紹介記事を担当させていただきました。

<http://yamagata-university.jp/>

代表
山形大学人文学部 4年 栗原美季

やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

協働人材育成部会の展開

協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業では、大学教職員・学生だけでなく、地域企業、NPO、地方公共団体、マスコミ、高校生、一般住民など、さまざまな人を巻

き込んだ「協働人材育成部会」を展開しています。大学だけでなく、地域全体で人材育成をおこなうための場として位置づけられています。個別の部会の内容はその都度

の状況に応じて様々です。1月から3月までに開催した部会の中のいくつかについて、参加した学生の感想を紹介します。

第4回目協働人材育成部会（庄内地域）

「地域を活性化したい！」という想いをみなさんが持っているのを感じました。調査に協力してくれた細谷集落の方々も活性化を望んでいました。しかし、多くの人にとって地域活性化の活動と自分自身の暮らしに距離があるのではないかと感じました。生活のためにお金を稼ぐことと、地域のための活動が別々になりやすいです。その境目が無くなってこそ、本当の地域活性化、持続可能な地域活性化が見えてくるのではないかと感じました。

地域の方との意見交換会では、学生が民泊したいという要望を出したら話がとんとん拍子に進んだように、地域の方にも隠れている「想い」があると思います。その隠れた想いに火をつけられる大学生になりたいです。今後も地域の方との交流を通して感じる様々な事を生かして、より充実した生活にしたいです。

※部会の内容は、山形大学農学部学生が庄内町で実施した研究調査の成果発表会です。



部会参加・執筆
山形大学農学部3年 大西偉益

第5回目協働人材育成部会（村山地域）

私は、山形大学の学生であれば知らない学生がほとんどいないと言える「キャリアデザイン」の履修者代表として、授業の感想と学びについて発表させていただき、その上で議論の場に参加させていただきました。「キャリア教育自体受けたことがないからどういうものか良く分からない」、「そもそもキャリア教育自体必要なのか？」など様々な意見が出ました。

めまぐるしく社会が変化しているなかで、キャリア教育を通して、「生きること」や「働くこと」を考え、社会人基礎力を磨くことが必要であると考えています。

議論を聞いていて、教員・大学側と今回参加された地域の方々との間には、様々な意見の相違があり、これから双方の歩み寄りが必要なのではないかと感じました。また「そもそも協働人材育成部会の趣旨は何なのか？」という疑問を持っている方もおり、今後部会の開催目的を参加者全員にしっかり共有した上で、運営していく必要があると感じました。

※部会の内容は松坂暢浩准教授を講師とした、キャリア教育のファカルティ・ディベロプメントです。



部会参加・執筆
山形大学人文学部3年 藤原真梨子

やまがた創生便り

～協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業～

COC+ 大学 OB・OG の現在

協働・循環型「やまがた創生」人材育成事業では、県内の大学・高専を卒業した皆様の地元での就

職・生活を応援します。じっさいに現在山形県内で働いているOB・OGについて紹介していきます。

今回は学生自らOBへの取材を実施してもらいました。その内容を紹介します

嶋之木卓哉（平成27年 山形大学人文学部卒業）



Q. 出身は？

山形県大江町の出身です。高校は寒河江高校です。

Q. 大学での専門は？

社会学を専攻していました。その中でも特に、性や性差に関することを学んでいました。

Q. どんな仕事をしていますか？

大江町役場総務課危機管理係で働いています。町内の危険箇所の

点検、災害対策用の設備や備品の管理などを行っています。

Q. 今の仕事を選んだ理由は？

自分の進路選択において迷ったときに、一度立ち止まって自分は何がしたかったのか考えてみました。そこでシンプルに思いついたことが人助けだったので、この仕事をしたいと考えました。また、故郷の行く末を近くから見たくなったということも理由の一つです。

Q. 仕事の感想は？

仕事の内容や、いわゆる「公務員像」といったものは、学生の時にイメージしていたものと全く異なっていました。私が今担当している仕事は、消費者行政、山岳遭難対策委員会、自衛隊協力会などの事務作業です。自分が公務員に

なろうと思ったときは正直このようなことに取り組むとは思っていませんでしたが、住民の方々から感謝されたときにはやりがいを感じます。

Q. 学生へのメッセージ

迷ったときは遠慮なく立ち止まってください。そこで冷静になったり、視点を変えたりして、はじめて分かることがあるのだと今は思います。また、自分が今取り組んでいることに精一杯力を尽くしてほしいです。同じ失敗でも、手を抜いて失敗したものと、力は尽くしたけれど失敗してしまったものでは、得られるものやその後の成長の度合いが全く違うのだと感じています。

取材・執筆

山形大学人文学部4年 東遥香

記事執筆者の募集

季報「やまがた創生便り」は、学生目線で地方創生・人材育成を考え、情報発信するために発行しています。県内大学・高専の学生の皆さん、県内大学・高専への進

学を考えている小中高生の皆さんによる記事執筆を広く募集します。また地域の方で、いまの若い人たちにぜひ自分たち地方創生・人材育成について発信したいという地

域の皆様の声も掲載したいと考えております。関心のあるかたは、ぜひ以下の連絡先まで気軽にご一報ください。

事業の連絡先

山形大学 COC 推進室
東北公益文科大学庄内オフィス
東北芸術工科大学法人企画室
米沢栄養大学総務企画課
東北文教大学運営企画室
鶴岡工業高等専門学校総務課
※☎を@に変換してください

電話 023-695-6263/6264
電話 0234-41-1115
電話 023-627-2089
電話 0238-22-7330
電話 023-688-2298
電話 0235-25-9453

E-mail: cocuisine@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
E-mail: coc-office@koeki-u.ac.jp
E-mail: c_o_c@aga.tuad.ac.jp
E-mail: jimuyone@yone.ac.jp
E-mail: m_mihara@t-bunkyo.ac.jp
E-mail: kikaku@tsuruoka-nct.ac.jp